

(別紙)

令和7年度茶業研究所研究報告会 概要

■ 記念講演

「茶業研究所100年の振り返りと、今後の茶業研究について」

京都府農林水産技術センター農林センター茶業研究所

所長 つつみ やすぞう
堤 保三

当所が大正14年3月15日に設立され、本年で100年を迎えます。この間に茶業研究所が本府茶業振興に果たしてきた役割や成果を振り返るとともに、これからの茶業研究所の在り方について述べます。

■ 研究報告

1 「高品質抹茶摂取による機能性の医学的評価～皮膚改善効果の解明」

関西福祉科学大学健康福祉学部健康科学科

(京都府立医科大学大学院医学研究科 兼任)

准教授 渡邊 映理
わたなべ えり

健康な女性104名に高品質抹茶、普通抹茶、偽抹茶を3か月間摂取してもらい、前後で皮膚の状態を調べました。今年度は、抹茶に含まれる物質や鉄分と、皮膚の改善との関連を検討したので、その結果を報告します。

2 「ニーズ調査から分かる高品質宇治抹茶のターゲット層と PR 方法について」

京都府農林水産技術センター農林センター茶業研究所
技師 高垣 友祐
たかがき ゆうすけ

現在、世界的に抹茶がブームとなっている状況ですが、これらは近年の健康志向の高まりと日本らしさを求める海外ユーザーによるものと考えます。この海外での旺盛な需要を国内においても確かなものにするために、高品質抹茶への関心と、その効果的な PR 方法について調査したので、報告します。

3 「気象経過に対応し、収量確保するための、茶園管理方法の解明」

京都府農林水産技術センター農林センター茶業研究所
技師 居原 太陽
いはら ひろあき

海外での抹茶ブームに対応するためには供給力を高める必要がありますが、近年気象変動が大きく従来の茶園管理方法では対応しきれていない状況がみられています。

そこで、供給力を高めるための茶園管理方法を探ることを目的に、当所作況園および山城地域の茶園管理履歴等のデータと気象との関係を統計的手法で解析したので、その結果を報告します。

4 「てん茶茎の有効活用方法の模索 ~香気成分の抽出と成分解析~」

株式会社GCJけいはんな OFFICE・研究所
研究員 山本 稔
やまもと りょう

抹茶製造の副産物であるてん茶の茎は、加工品のブレンド素材等として利用される一方で、未利用のまま廃棄される例もあります。本研究では、茎の新たな活用方法を見出すことを目的として茎に含まれる香りに着目し、各種蒸留条件による抽出と香気成分の分析を実施したので報告します。